

特集⑥ 人が動かす山九のビジネス

グループ力を結束して
お客様と社会の期待に応える

～ アルミ缶輸送のモーダルシフト ～

山九は約40年前からアルミ専業メーカー・アルテミラ製缶株式会社（以下、アルテミラ製缶社）のアルミ製飲料容器の輸送を開始、20年ほど前から岐阜工場から佐賀県の倉庫までの輸送を行ってきました。ドライバーの労働時間とCO₂排出量削減のため、近海郵船株式会社（以下、近海郵船社）と協力し陸上輸送と海上輸送を組み合わせた輸送を行い、アルミ缶の安定供給を支えています。



高い品質管理が求められるアルミ缶輸送

アルテミラ製缶社は、日本初のアルミ缶ビールが発売された翌年の1972年、三菱金属株式会社（現・三菱マテリア株式会社）が飲料用アルミ缶事業に進出したところから始まっています。現在はアルミ飲料容器の製造を行っており、飲料メーカーの工場にアルミ缶空容器を届ける物流業務を当社が担っています。

アルミ缶空容器は非常にデリケートで、高い品質管理が求められる製品の一つです。製造されたアルミ缶には飲料メーカーで飲料が注入され、消費者に届きます。そのため、輸送段階で小さな傷やへこみ、匂いや菌が付着すると、顧客に提供できない不良品となってしまいます。さらに、飲料は製造後一定時間以内に注入できないと廃棄になってしまうため、飲料メーカーの指定時間通りに安定して輸送しなければなりません。

このデリケートな製品の輸送においても、山九の人財が持つ高い品質管理と物流のノウハウをもとにお客様の商品を安定して輸送することで、信頼関係を構築してきました。



飲料が注入される前のアルミ缶空容器

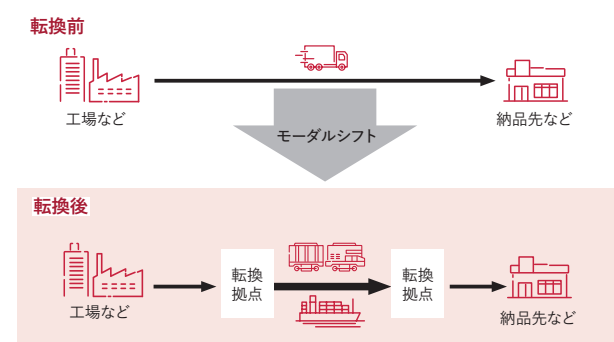
パートナーと取り組むモーダルシフト

ドライバーの労働時間削減や輸送能力の向上を図るため、当社は2021年にアルテミラ製缶社に対し、輸送手段を一部船舶に変えるモーダルシフトを提案しました。モーダルシフトはドライバーの拘束時間短縮や1回あたりの輸送量の増加、CO₂削減への貢献などのメリットが大きい一方で、品質の担保やリードタイムの延長など、様々な課題もありました。提案を実現させるためには、山九のこれまでのノウハウを全て共有しながら、パートナー企業とともに課題を一つひとつクリアしていくことが不可欠でした。

まず、船舶の振動による製品の傷やへこみの発生等、品質低下への懸念を払拭するために、トラックの荷台に振動計を取り付けて船舶輸送を行う実験を行い、船舶輸送においても品質に影響が無いことを実証しました。

また、アルミ缶の陸上輸送においては、積み下ろしの際に傷やへこみをつけないようトラックの荷台にローラーを付けたり、菌の付着を防ぐために抗菌仕様にするなど、特殊な装備を持つトラックが必要です。モーダルシフトを実現するためには、船舶にもトラック同様の特殊なシャーシが必要でした。そこで、当社のこれまでのアルミ缶輸送のノウハウ・技術を近海郵船社と共有し、新たに7台の専用シャーシを製造していただきました。

モーダルシフトとは？



リードタイムはトラック輸送のみと比べて1日延びたため、アルテミラ製缶社の出荷スケジュールを見直していただきました。また、納品については、納品先飲料メーカーの工場門前倉庫にアルミ缶を一時保管する運用に変更するなど、関係者全ての協力のもと、モーダルシフト実現に向けて体制構築を行いました。

グループ力で要望を実現する

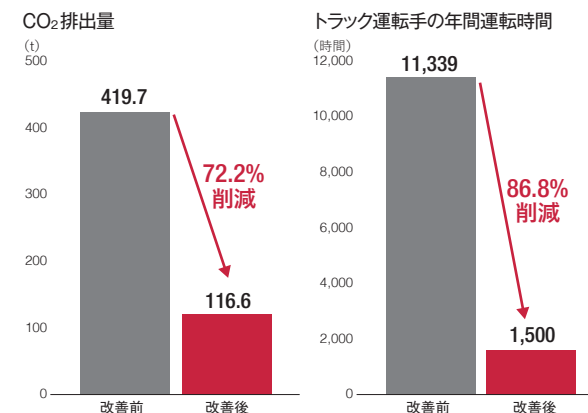
今回の提案において特に活かされたのは、当社グループが強みとしている物流ネットワークです。輸送ルートの変更により、新たに博多港から佐賀県のアルテミラ製缶社の倉庫までの陸上輸送が発生しました。通常、輸送手段・エリアがまがると、複数社が輸送に携わるため一貫した品質管理が難しくなります。

しかし、当社グループで陸上輸送を担うサンキュウ・トランスポートは全国に展開しており、一貫して品質を維持した輸送が可能です。岐阜工場から福井県の敦賀港までをサンキュウ・トランスポート・中部が、博多港から佐賀県の倉庫までをサンキュウ・トランスポート・九州が担うことで、輸送の全てを自社グループ内で完結でき、高い品質を維持したまま輸送ルートの変更が実現しました。

提供価値を支えるのは人財とネットワーク

今回のアルミ缶空容器のような特殊な商材の輸送には、基本的なルールを作るだけでなく、一定のテクニックが必要です。当社はいかなる地域でも同じ高品質を担保できるよう、グループ全体で品質管理を徹底しています。現場の人財によって生み出される価値こそが当社の提供価値に他なりません。今後も、人財を磨き、提供するサービスを高度化することで、さらに社会に貢献していきます。

モーダルシフトによる効果



Message | お客様からのメッセージ

今回の提案を初めて受けた際、概要説明ではありましたが、輸送体制や製品の品質維持などはもちろんのこと、弊社製品のお客様が求める水準を理解した上での提案であるという安心感もあり、なかば前のめり気味にぜひ進めたいと即答したことを覚えています。途中、お客様の要望、弊社対応など、越えるべき課題は多くあったものの、山九様と弊社で密に連絡を取り合い、お客様のご理解、ご協力をいただき、また山九様の真摯な対応によって、テスト輸送から本番輸送に至るまで無事に進めることができ、期待以上の成果が得られたと感じております。今後は柔軟な対応力にさらに磨きをかけ、それを大きな強みとして活かし、さらなる発展につなげられればと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。



アルテミラ製缶社
調達・SCM部門調達部
マネージャー
牧野 賢様